

【和木町】地域ぐるみの防災キャンプ

〈ねらい〉

学校・保護者・地域・関係機関が連携し、防災に関する総合的な体験学習を実施することで、児童生徒が災害発生時に、正しい知識をもとに状況判断し、安全に行動することはもとより、地域に貢献できる心と実践力の育成を図ります。



実施内容

- 1 実施日時：平成29年8月1日（火）・2日（水）
- 2 実施場所：和木中学校多目的スペース
- 3 参加者：和木小学校児童・和木中学校生徒42人
関係学校教職員15人、地域住民（保護者含む）8人
町企画総務課危機管理担当1人、町都市建設課2人
町教育委員会4人、県教育委員会1人

4 プログラム

【1日目】8月1日（火）

	13:00	13:20	14:00	14:30	15:15	16:00	17:00	18:15	19:00	19:30	21:30
開会行事	【学習1】	【学習2】	【学習3】	【学習4】	【学習5】	【学習6】	【学習7】	夕食	【学習8】	就寝	
	避難訓練	避難者受付	[給水訓練] 町都市建設課 ・給水車 出動	[講話] 町企画総務課 危機管理監	[実習] 日本赤十字社 ・災害時非常持出品 ・応急処置訓練	[実習] 保健体育科教員 ・着衣泳体験	[グループワーク] ・避難所生活 ルールづくり		[実習] ・寝床づくり ・振り返り		

【2日目】8月2日（水）

	6:30	7:00	7:30	8:00	9:00	10:00	10:30	11:00	11:30	11:50
起床	朝食	清掃・片づけ	【学習9】	【学習10】	【学習11】	振り返り	熟議	閉会行事	引き渡し	
			[実習] 岩国消防署東出張所 ・心肺蘇生訓練 ・ロープワーク	[講話] 県学校防災アドバイザー	[実習] NTT西日本 ・災害伝言ダイヤル体験					

5 活動の様子

1日目

《避難訓練》

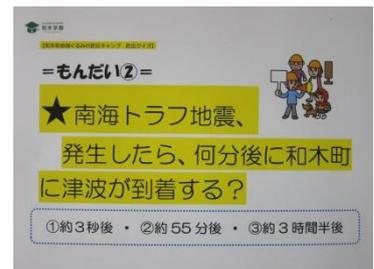
地震発生！電車が太田駅（広島県）で緊急停止！徒歩（約2km）で避難所となる和木中学校へ移動しました。途中、防災倉庫の見学や防災クイズにも挑戦しました。



〔班ごとに避難〕



〔防災倉庫見学〕



〔防災クイズに挑戦〕

《給水訓練 講師：和木町都市建設課》

給水車出動！ 都市建設課職員から、「断水による影響」等の説明を受けた後、昨年度の熊本地震で使用された物と同様の給水袋を受け取り、訓練開始です。一人1日に約289リットルを使うと言われていました。2リットルのペットボトルが約145本、給水袋ではなんと48回、水をもらわないといけません…。互いに助け合うことの大切さを学びました。



〔給水車出動〕

〔容器に入れて密封する〕



〔給水袋（6リットル）〕

《講話 講師：和木町企画総務課 危機管理監》

町企画総務課危機管理監からは和木町で起こりうる災害、身近な危険から自分の身を守る方法について学びました。



〔危機管理監講話〕



〔真剣に学びました〕



〔身を守る行動について〕

《応急手当実習 講師：日本赤十字社指導員》

いざという時、周囲の安全に貢献できるように、応急手当の仕方を学んだり、三角巾や身近なものを使用した応急手当を学んだりしました。



〔応急手当講習〕



〔三角巾を使用した応急手当〕



〔ストッキングを使用した応急手当〕

《着衣泳実習 講師：保健体育科教員》

中学校のプールを使用し、着衣泳の体験をしました。「服がまとわりついて泳ぎにくいです。」有事の際は、無理に泳ぐのではなく“浮いて待て”がポイントだと学びました。



〔着衣泳講習〕



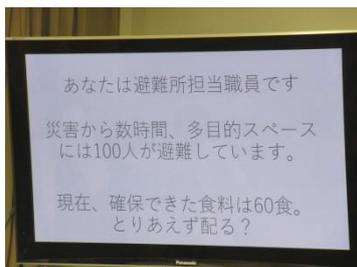
〔1人で浮けますか？〕



〔服を着たままでは泳ぎにくい！〕

《グループワーク》

「100人が避難。食料は60人分しかない。配る？」等、グループで考えました。自分たちでしっかり話し合い、みんなが安心して生活できるルールを話し合いました。



〔答えのない間に挑む！〕



〔協力し、自分達なりの答えを出す。他に学ぶ！〕



《夕食 講師：和木町給食センター職員》

夕食は、アルファ化米等の非常食を多目的スペースにて食べました。



〔初めてのアルファ化米〕



〔アルファ化米づくり〕



〔地域の方と夕食〕

《寝床づくり実習 講師：和木中学校地域協育ネットコーディネーター・危機管理監》

段ボールを使い、寝床をつくりました。



〔寝床づくり体験〕



〔寝床の完成！〕

2日目

《ラジオ体操・健康観察・朝食》

ラジオ体操の後、健康観察を行いました。朝食は乾パンを多目的スペースで食べました。



〔ラジオ体操〕



〔小学生による健康観察〕



〔小学生による乾パンの配給〕

《ロープワーク・心肺蘇生実習 講師：岩国地区消防組合》

岩国消防職員の指導のもと、ロープワークと心肺蘇生訓練を行いました。実習の開始時刻は8時です。なんと、当直開けの部隊が指導に駆けつけてくださいました！熱いご指導を頂きました！！



〔中央消防署東出張所の皆さん〕



〔ロープワーク実習〕



〔心肺蘇生訓練〕

《講話 講師：県学校防災アドバイザー》

県学校防災アドバイザー幸坂美彦氏から、「避難所の生活」と題して、実際の避難所生活で起きる課題や災害への備えについて御講演をいただきました。



〔2日間の避難所生活を振り返りながら話を聞きました〕



〔予期せぬ事が起きるもの〕

《災害伝言ダイヤル体験 講師：NTT西日本山口支店》

NTTフィールドテクノ山口営業所災害対策担当職員の指導のもと、「災害伝言ダイヤル171」の体験を行いました。



〔「災害伝言ダイヤル」って何？〕



〔災害伝言ダイヤル171体験〕



【児童・生徒・保護者の感想から】

- 僕は、まず、避難をするために避難場所を調べておきたいです。災害が起きた時のために、もっと準備をしておきたいです。あと、おぼれた時のために「UITEMATE」の合い言葉で、自分の身を守ります。(小5男子)
- 地域の方や異学年との交流が出来たのがよかった。(中1女子)
- この防災キャンプを通して、協力の大切さ・人を思いやる心の大切さが分かりました。特に心に残ったことは、いつもは普通に譲り合いができる人も災害がおきると、“自分のものは自分だけのもの”となってしまうことです。もし本当に起こったらどう対応するかを考えておきたいです。(中1男子)
- 地域の人たちとの交流が大切だということが分かった。(中3女子)
- 心肺蘇生訓練は、とても疲れました。人の命がどうなるかを自分が握っているんだなと考えると少し焦ってしまいました。(中3女子)
- 災害に遭った人は、贅沢の出来ない生活が毎日続き、厳しいことが改めて分かりました。(中3男子)
- とても有意義な体験活動であったと思う。今後も、どんな形であれ、継続した取組をしてほしい。(保護者)